

活動報告

団 体 名	レスキューストックヤード
活 動 名	サロン活動を通じた地域活動拠点運営のためのサポート事業
活動期間	2021/12/01～2022/03/31
活動の成果	●活動の成果 ・令和元年台風 19 号水害で被災した長野市豊野区を中心とした被災地と、同年に続き令和 3 年 8 月豪雨水害で被災した武雄市久津具地区との交流・恩送り企画を実現することができた。両地区は、浸水深等の被害状況や、高齢化、旧住民の多さ等の地域特性にも類似点があり、地元支援団体が中心となり、炊き出し・弁当配布を契機に在宅避難者の支援拠点を運営したなどの共通点が見られていた。そのため、両被災地で支援活動を行ってきた本法人が双方の関係をつなぐことで、共感性が生まれ、痛みや経験の分かち合い、学び合いの土壌が醸成された。 ・NPO 法人みつわより、「炊き出し・弁当配布をきっかけに、地域活動への意欲を高め、顔の見える関係になった地域ボランティアに、今後も継続してカフェに関わって欲しい」という願いを聞いた。長野でも同様の転換期があり、炊き出し等の支援拠点が、「まちの縁側ぬくぬく亭」という住民主体の地域活動拠点に発展した。今回、オンライン・リアル交流会を経て、代表の荒川氏より、「ぬくぬく亭の経緯や想い、具体的な活動内容を知ること、久津具地区の住民の方々のモチベーションが高まり、「私たちにもできるかも知れない、やってみたい!」というやる気が後押しされた。地域の担い手づくりや、地域力向上への一歩につながる手ごたえを見出させた」という評価を頂いた。 ・久津具地区の区長の案内によるまち歩きを通じて、後述のような次の災害への課題が表面化した。①浸水後の孤立②高齢化による地域支援者の減少③高齢者等要配慮者世帯の「避難所へ早く逃げる」という意識の醸成④コロナ禍の分散避難に伴う近隣避難所の不足⑤避難施設の物・空間整備など。今回の企画を通じて、地区の皆さんにも、地域共生カフェは、新たな避難所としての役割を果たすと共に、災害と隣合わせでも「地元に住み続けたい」と願う住民の気持ちを大切に、防災意識や人の繋がりを育んでいく学びの拠点としても機能できる可能性があることを認識して頂くことができた。 ●今後の課題 ・地域共生カフェが、地域の集い、学び、活力醸成の場として機能するまでには、まだ道半ばである。出水期が間近に迫る中、もうしばらくは外部からもサポートが必要であると考え。長野の交流を継続しつつ、久津具地区の特性にあった、防災活動の先進事例の紹介や、住民の想いややる気を引き出すワークショップの開催など、地区役員やみつわ、おもやいらと引き続き検討を重ねながら、名古屋からも支援を継続できるような体制を構えていく。

寄付者への
メッセージ

皆様のご大切なご寄付により、被災地と被災地の出会いの創出と、同じ痛みと課題を抱える立場同士だからこそ生まれる、学び合いの相乗効果が生まれました。これらの取り組みが、次の災害で一人ひとりの命と暮らしを守るための地域活動や、「この地域で生涯を全うしたい」と願う住民たちによる、福祉のまちづくりへの第一歩につながったと思います。本当にありがとうございました。

(活動のようす)

